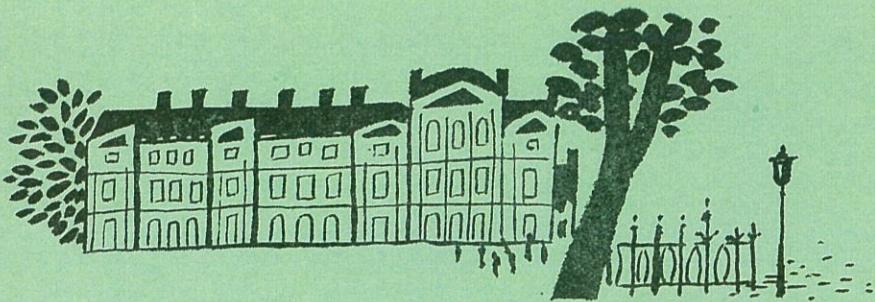


こ。 む。 し。 こ。 む。 さ。

薩摩治郎八

森田たまさんが私にいった「あなたの書くパリは日本人には向かないわ。旅行者のパリじやなくちや解らないからよ。」

そういうわれてみれば私程旅行者の話すこと書くことに関心のないものはない。どうせ皮相な観察でなければ受け売りのシッタカぶりだからである。あらゆる見地からモトデのかかってないぱっと出の田舎者のパリだからきくだけでも時間が惜しい。ことに銀座族のパリときたら鼻持ちもならない。洋裁屋のオカミさんが笛をつけに出来かけて帰りつき「銀座もいいけどフランス語が通じないので不便ね」といったがその仕立屋さんパリでは全くのお手あげで食事さへ一人では出来ず大使館に泣きついで通訳してもらつたという経歴の所有者であるというのだからオドロキだ。そうかといつて旅の恥はカキステの失敗談も一向面白くない。教養とエチケットを知らない無智の裏づけを自慢話にするなどはどんな角度からみても感心したものではない。ベレー・バスケを屋内でも漫遊している文化人もあれば、シャンソン歌手と自称して一語も解らないフランス語を売りつける芸人もある。御幸通りの方がサントノレ街よりシックなんてうそぶく活動屋さんなどはザラだ。日本特有の下駄とか足袋の話なら解るがあの既製品の安物ばかり店ざらした道路予定地のようなキタナイ通りがサントノレ



よりシックとはキリスト様でも御存知あるまいともいいたくなる。安時計屋が宝石店、安シャツ店がDE・LUXEな紳士用品店ガラクタ文化は植民地にもならない。銀座で自慢出来るものがあればネオンサインとキャバレー、お世辞ぬきにコロンバンの菓子位なものであとはこれガラクタばかりのスマム街だ。何一つとしてDE・LUXEと名のつくような品物は見当らない。銀座ほど乱雑で毛並みの怪しき氣な落付きのない盛り場はない。歯の浮くような「文化人種」とインチキブローカーと社用族か芸人、女給と名づける接客婦：夜のゴマノハイ：有馬頼義さんが日本の男性は何故にクダラヌ女を相手にしなければ酒を飲み遊べないのか？とハッキリ書いたが銀座の夜ほどシットリしないものはない。高級店は別として銀座のお店はどうしても人気のあつた夜店趣味が抜けきれない。ロンドンでボンドストリート、パリでリューサントノレをホッつき歩きつけた人間の力にはどうしてもシックリこないものがある。そうなると結局銀座はショッピングだけでは最高級のボンドストリート、サントノレ街と太刀打ちはできない。フランスで修業してきた地道な洋裁師のマダム・マサコが「とてもデザイナーなんてものではありませんよ。私などはお針つ子式にやつっています」といつたが本当にパリを知りきつた人間にしてみたら既製服級の腕しかない洋裁屋しかない日本でデザイナー級の仕事をしているものは稀なのだという感想を抱くのは無理ない。

お菓子にしたところがパリの「ランペルメイエル」のように次から次へと出来たの菓子を運んできて客が自分で皿にのせてテーブルに運んでゆくような商店があつてもよいのではなかろうか？ およそ喫茶店と称して前日に卸屋から

配達されたような菓子を如何にも不味そうに無難作にウェイトレスが運んでくる店が多いのでは食欲をそがれてしまう。すべてがアメリカ風にオートメーション化してしまつたのではもう美食美菓は望めない。

ロンドンではお茶……午後五時の……を飲む習慣は生活のなかに織り込まれてゐる。劇場のマチネーでも案内ガールがアントラクトにお茶とケーキを観覧席に運んでくる。前もつて「お茶を?」と予約しておいて小綺麗な小盆にのせて持つてくる。楽しい習慣だ。大衆店は「ライオンズ」で昼食もやればお茶時にBGもサラリーマンもかけつける。オフィスでもお茶を出す。だから高級な喫茶店は紳士淑女だけのたまりとなる。パリのコロンバンは地味な店だが「国立フランス劇場」の俳優のたまりになつてゐる。外国人よりはフランス人が利用する。私はマリー・ベルとコロンバンに入ったことがある。派手なのはサン・トノレの「ランベルメイエル」の新店でパリ版のザーマスマダムのたまりだ。二号族も粋な姿を現わすが、「セウイニエ侯爵夫人」はグッと古典趣味で中産階級の奥様族に人気がある。チョコレート販売が主眼だからお菓子はコロンバンなどの方が優秀だ。第一次大戦直後アメリカ人がパリにドッと寄せせて「ランペルメイエル」や「シルダール」がアイスクリーム・ソーダを売物にしたのが当つたのだ。一口にいって高級ソーダ・ファウンテン店なのだ。

幸なことにパリでもロンドンでも薄ぎたないニキビ学生族は一切こうした場所には出入しないから雰囲気も社交界的で上品。ましてや社用公用族の客種は皆無だから「美女喫茶」なんて色氣の方が看板で味覚の方はアイマイな店がないのは気持がよい。

(パリ薩摩会館旧館主)



Paris - Allée cavalière du Bois de Boulogne (Ph. Vicquier)